

## 海外安全対策情報（2017年7月～9月：ナミビア）

### 1 治安情勢及び一般犯罪の傾向

最新の犯罪統計のとおり、首都ウィントフックが位置するコマス州での犯罪発生件数が多いことには変わりはないものの（ナミビア警察発表統計：

<http://www.nampol.gov.na/>）、国境付近、特にアンゴラとの国境を接する北部のオハンゲエナ州では、近年アンゴラの経済悪化の影響から、同州の経済状況も悪くなり、犯罪件数が増えている。

首都ウィントフックで発生している車上荒らし（スマッシュアンドグラブ）や住居不法侵入については、犯行グループが銃器を所持していることもある為、不必要な抵抗は避けた方が良い。なお、ナミビア警察によると、犯罪者はグループのケースも多いが、プロの集団のケースは少なく、多くは貧困層の素人集団である。

### 2 外国人に対する犯罪の事例

（1）8月13日、昼間、カトウトウラ（タウンシップ（黒人居住地区））で邦人女性2名が路上強盗の被害にあった。3人組の黒人男性が前方より接近し、邦人女性が所持していた肩掛けバッグを奪い逃走。続いてもう1名の邦人女性のバッグも奪われた。被害はパスポート、財布、電子機器及び金品であった。同地区は当地の伝統料理を楽しむ為に、多くの観光客が訪れる場所。

（2）8月21日、多くの外国人観光客が訪れるウォルビスベイで、邦人観光客男性がレンタカー内に置いてあったバッグを盗られる被害が発生。後にバッグは警察に届けられたが、電子機器や現金が抜かれた状態であった。男性は車輻にロックを掛けずに車を離れていた。

（3）8月15日、13時30分頃、ウィントフック市内で、レンタカーでスワコップムントへ向かっていたドイツ人観光客（4人家族）が4人組の男にカージャックされ、金品を要求された。後続のバスの運転手が異変に気付き、所持していた銃で威嚇し、4人組の内2人の身柄を警察に引き渡した。この事件による物的被害はなかったが、ドイツ人家族の男性（父親）が軽傷を負った。

（4）9月12日、23時頃、ウィントフック市内で当地在留の外国人宅に強盗が入った。強盗集団は民間警備会社から派遣されていた1名の警備員を縛り上げた後、在留外国人宅の敷地内で待ち伏せをし、在留外国人が帰宅後に玄関を開けたと同時に、背後から襲い縛り上げた。強盗集団は在留外国人に金を要求したが、同人が現金を所持していなかったため、携帯電話やパソコン等を持ち去り逃走した。

（5）9月29日、午前、ノースインダストリアルズのチャイナタウン付近の路上で、邦人女性が立て続けに3度、車上強盗未遂に遭った。当人が目的地付近で駐車し、

降車の準備していたところ、黒人男性が助手席のドアを開けようと試みた。助手席のドアはロックされていたため未遂となったが、当人が気を静めるため車内で待機してところ、別の黒人男性が助手席のドアを開けようとした。その後更にもう1人の黒人男性も強引に助手席のドアを開けようとした。全て未遂に終わったため、被害はなかったもの。

### 3 薬物・危険ドラッグについて

薬物や危険ドラッグ等の密輸に際して経由地として当国が利用されていることもあるが、ナミビア人によるドラッグの使用率はそれ程高くない。ただし、一部のバーではマリファナを使用している者が出没しているという情報もある為、夜間のバーやクラブなどでは十分に注意して行動する必要がある。

### 4 交通事故

当地で発生する交通事故発生の主な原因は、スピードの出し過ぎや個人の不注意が大半で、直線で片側一車線という道路も大きな要因のひとつ。高齢者や初心者が車の流れを読まずにゆっくり運転している場合や幹線道路で大型トラックが低速で走っている場合、あるいは前方を良く確認せず無謀に追い越すなどの運転により事故を起こすケースが多い。また、飲酒運転手の事故に巻き込まれないよう、注意する必要がある。

### 5 テロ・爆弾事件発生状況

当該事件の発生は認知していない。

### 6 誘拐・脅迫事件発生状況

当該事件の発生は認知していない。

### 7 対日感情

ナミビア人の日本人に対する感情は良好。

### 8 日本人安全対策の為にとった具体的措置

在留邦人へのお知らせの発出

○8月22日付、犠牲祭（イスラム教の祝日）期間に伴う注意喚起

○9月6日付、強盗被害への注意喚起について

○9月20日付、キャッシュカード強奪の注意喚起について（了）